



姫路市 新型コロナウイルス感染症

対応記録・検証報告書

地域の薬局・薬剤師が取り組んだ 新興感染症に対する日々の備えや地域への対応について

一般社団法人姫路薬剤師会長 浦上 文男

令和2年1月に始まった日本での新型コロナウイルス感染症の流行は、これまでに8つの大きな波となり日常生活や人々の意識を大きく変えました。同年1月頃から薬局・ドラッグストアをはじめマーケットの店頭からマスクが消え、マスクを買い求める方で溢れかえりました。

姫路薬剤師会では、国内での感染流行を発端に研修会や催しの中止が増えました。同年4月7日には初の緊急事態宣言が発出され、学校の臨時休校に伴い給食器および水道水の学校衛生検査が中止となりました。国内の感染者が次々と発表され、PPEが不足し医療物資が乏しい中、マスクやエタノールの確保を行い会員薬局へ配布し、地域医療の質の確保に努める事ができました。また、同年4月以降、新型コロナウイルス感染拡大を受け、軽症者の宿泊療養施設となる姫路市のホテルで、感染者の受け入れが始まりました。その際、兵庫県保健医療部薬務課から兵庫県薬剤師会を経て、姫路薬剤師会に宿泊療養者に対する医薬品の対応依頼がありました。市内で軽症者の受け入れが行われたホテルで療養する宿泊者に対し、会員薬局が協力して解熱剤や咳止め等の市販薬の対応を行いました。また、学校養護教諭より学校における新型コロナウイルス感染対策・対応の依頼があり、エタノールや次亜塩素酸ナトリウムでの消毒方法をはじめ、学校内での感染対応ができるように当会学校薬剤師が尽力しました。

令和3年4月以降、自宅療養の感染者への保健所往診が始まり、保健所と会員薬局が連携をとり、処方箋の対応を行うことで医療負担の軽減に貢献できました。また、長引く新型コロナウイルス感染症に対し、会員・家族を含めたワクチン接種(3回目まで)の対応を姫路市医師会と連携をとり調整しました。また、地域包括支援センターからの依頼を受けて正しい感染対策の出前トークも行い、市民の意識向上に協力できました。

令和4年1月にはワクチンの分注作業の研修会を会員に向けて行いました。それを踏まえ、同年3月に姫路市からの依頼により、東姫路の大規模接種会場でワクチンの分注作業を会員有志で対応し、不足するワクチン接種要員のサポートおよび市民の感染予防に貢献できました。

同年8月10日、県による新型コロナウイルス感染症の「自主療養制度」を受け、姫路市内の薬局で11日から抗原検査キットを無料配布すると発表されました。その後、市長自らの要請を受け、弊会として会員薬局の中から8月15日までは最大8カ所の薬局が対応し、お盆明けの8月16日からは最大99カ所に拡大して配布対応しました。配布事業は流行「第7波」で逼迫する発熱外来等の医療負担軽減に貢献することができました。

ニュース一つでパニックが起こり、医薬品や医療用品がたちまち欠品となったコロナ禍を踏まえ、感染症に対する日々の備蓄や素早い対応周知が必要であり、さまざまな情報が錯綜する中で正しい情報を掴み、流れを読み、先を見越した対応をとることが求められました。